

けんぽく

第35号[平成28年10月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成28年10月31日発行
「食」と「ふるさと」
新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

◆ふくしま土壤ネットワークが「桃の力」プロジェクト 成果を内堀知事に報告！

平成28年9月20日（火）、「ふくしま土壤ネットワーク」の代表、高橋賢一氏と役員3名が、内堀知事を表敬訪問しました。東日本大震災後、同団体がキリングループの支援により取組んできた、「桃の力」プロジェクトが今年の7月で終了し、その成果や反響などを知事に直接報告しました。



表敬訪問の様子

当日は、メンバーがプロジェクトで誕生した「農家のももジュース」や「農家のももトースト」を持参し、原料のもも果実や製品へのこだわり、開発時の苦労・工夫などについて説明した後、知事が試食・試飲をしました。



「農家のももトースト」

また、まずは地元の子供達たちにもものすばらしさを伝えようと、ももの生育の1年を分かりやすく絵本にまとめ、市内の全小学校及び幼稚園に配布したところ、他の市町村からも「ほしい」との声があがるなど、大きな反響があったことが報告され、実際の絵本が内堀知事にも贈呈されました。



「贈呈されたものの絵本」

知事からは、「ふくしま土壤ネットワークの活動が県産農産物の風評払拭にもつながることを感謝するとともに、若い農業者の発想でこれからも本県農業をけん引し、がんばってほしい」との励ましの言葉がありました。

(農業振興普及部)

◆福島市農業後継者連絡協議会が新潟県で 福島市のおいしい果物をPRしてきました！

平成28年10月15日（土）、福島市農業後継者連絡協議会（以下「市連協」という。）が、新潟県魚沼市において開催された北魚沼農業協同組合大農業祭に出展し、福島市で生産されたりんごやなし、ぶどうをPRしてきました。この活動は、市連協が県の「ふくしまの恵みPR支援事業」を活用し、震

災後、毎年出展しているものです。



PRしたりんご(陽光、王林、シナノスイート)

当日は、天候に恵まれたこともあり県内外から多くのお客様が訪れ客足が絶えることなく、メンバーは品切れとなるまで慌ただしく対応していました。



試食する来場者

試食いただいたお客様からは「甘い」、「美味しい」、「去年のりんごがおいしかったので今年も来ました」等うれしい声かけられました。



来場者で賑わう会場の様子

県産農産物の安全・安心に関するチラシも一緒に配布しましたが、「安全であることが分かっているので気にしていない」という声も聞くことができました。

新潟県で流通しているりんごの多くは長野県産ですが、この活動を通して福島県りんごも負けず劣らずおいしいことを知ってもらえました。今後も市連協では福島のおいしさをPRしていきます。

(農業振興普及部)

◆平成 28 年度「田んぼの学校 稲刈り」が行われました！

平成 28 年 10 月 14 日（金）、福島市立飯野小学校の敷地内水田において、平成 28 年度「田んぼの学校 稲刈り」が行われました。

この事業は、県が実施する「ふくしまの農育」推進事業を活用して、平成 27 年度から 3 年間、5 年生を対象に実施されているものです。今回は、5 月に田植えをした苗が順調に収穫期を迎え、稲刈りをするものです。



黄金色に突った稲穂

始めに、大舟木校長から「5月に植えた苗がみんなの成長とともに稲も『生長』したが、これは色々な人の助けがあったとのこと。今回は機械を使わずにみんなの手で刈っていくのでケガをしないように気を付けて作業して欲しい」と挨拶がありました。

次に、田んぼの学校長である高野氏より稲刈りの説明があり、鎌の使い方や刈った稲の束ね方を教わりました。



稲刈りの説明を真剣に聞く児童たち

その後、児童達は早速2人1組になり作業を始めました。児童達は稲を刈ることはすぐに慣れて上手にできましたが、束ねるのに四苦八苦していました。そして、束ねた稲を順に「はせ」にかけていきました。



次々と稲を刈って束ねていく児童たち

作業終了後、高野氏からは「今年も良くできていた。誰もケガをせず、落ち穂拾いも上手だった」、当農林事務所農村整備部の菅野主任主査からは「田んぼの学校の作業を通じて米の大切さや作業の大変さを知ってもらいたい」、担任の柳沼教諭からは「言われてやるだけでなく、自分たちで仕事を見つけていたのは良かった」との講評がありました。

児童達からは「初めての稲刈りで大変さが分かった」、「鎌の使い方を教えてもらって良かった」、「自分たちで作ったものが刈れて良かった」など様々な意見が聞かれました。

今後は、脱穀をして自分たちで収穫したお米でおにぎりを作り試食する予定です。



高野久 田んぼの学校長と5年生児童たち

(農村整備部)

◆国見町で少年仲間づくり教室「お米について知ろう・稲刈り体験」が開催されました！

秋晴れの平成28年10月1日(土)、国見町小坂の水田において、国見町生涯学習課主催の少年仲間づくり教室「お米について知ろう・稲刈り体験」が開催され、地元の国見町立国見小学校の児童(4～6年生)40名が参加しました。

当日は、国見町で水稲の大規模経営を行っている小坂アグリ株式会社(以下「小坂アグリ」という。)の全面協力のもと、福島県オリジナル水稲品種「天のつぶ」の刈り取りを行いました。



稲刈りの様子

始めに小坂アグリの朽木勝之社長から稲刈りの「コツ」を聞いた後、約30aの水田に移動して、国見町産業振興課及びふくしま未来農業協同組合国見営農センター、当農林事務所伊達農業普及所の職員から稲の刈り方や束ね方の指導を受け、6班に分

かれて稲刈りが始まりました。

ほとんどの児童は初めての稲刈りでしたが、鎌の使い方をすぐに覚えて、まっすぐや横に刈り取るなど、それぞれが思い思いに楽しみながら稲を刈り取っていました。その後刈り取った稲を束ね、天日干し用の棒ぐいに積み上げる作業も行いました。また、大型コンバインによる稲刈り作業を見学し、最後に全員で記念写真を撮り終了しました。



集合写真

昼食は、小坂農村総合管理センターにて小坂アグリが生産した新米の「天のつぶ」や具だくさんの豚汁の昼食をおいしく頂きました。

続いて、伊達農業普及所の鈴木主査が「天のつぶとごはんの話」の講話を行い、天のつぶの品種特性や今日刈り取った稲からできるおにぎりの数など、クイズも交えた講話に児童たちは興味深く聞き入っていました。



伊達農業普及所・鈴木主査の講話を聴く児童たち

最後に、児童の代表から小坂アグリ of 朽木社長始め関係職員に対して、米づくりの大変さやお米の一粒一粒の大事さ、農業の大切さを体験できたことへ

の感謝の言葉があり、楽しく有意義な稲刈り体験を終えました。

(伊達農業普及所)

◆「第2回『おいしい ふくしま いただきます!』キャンペーン」を開催!

平成28年10月23日(日)、福島市公設地方卸売市場の「第33回わくわく市場まつり」の一角において「第2回『おいしい ふくしま いただきます!』キャンペーン」を開催しました。

このキャンペーンは、県産農林水産物のおいしさや安全性を県民の皆様に再認識していただき、県内消費の拡大、地産地消の推進を図るためのものです。

当日は、放射性物質検査体制が分かるチラシを配布した他、ミスピーチキャンペーンクルーにお手伝いいただき、旬の県産りんごや梨、松川浦漁港(相馬市)で試験操業により水揚げされた水だこや小女子等を使用した試食を提供しました。また、福島県食育実践サポーターで野菜ソムリエの荻野さんに御協力いただき、県産農林水産物を使ったレシピ紹介や食育教室を行いました。



おいしさに笑顔がこぼれます

レシピ紹介では、福島市産りんごの「簡単サクッとパイ」や、県産オリジナル米「天のつぶ」の新米を使った「小女子と大豆の炊込みご飯」等を実演し、来場者にとっても好評で、「家でもやってみたい」との声を多数いただきました。また、親子を対象とした食育教室では、野菜にチョコレートに付けて食べる新しい食べ方を紹介しながら野菜について学んでいただき、参加したお子さんからは「これなら、おいしい」と笑顔がこぼれていました。



野菜ソムリエによるレシピ紹介

併せて、県産農産物の安全・安心に関するアンケートを 300 人に実施しました。いただいた回答は集計後、今後の PR 活動に役立てて参ります。



親子で参加いただいた食育教室

当イベントを通して、当日はたくさんの「おいしい」という声を聞くことができ、県産農林水産物の消費拡大が期待できる一日となりました。次回は、平成 28 年 11 月 13 日（日）、道の駅安達智恵子の里（上り線）において開催します。皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。

（企画部）

◆川俣町山木屋地区も実りの秋を迎えました！

川俣町山木屋地区は、東日本大震災と原発事故の影響により全域が避難地区となっています。

山木屋地区への帰還と営農再開に向け、今年度は福島県オリジナル水稻新品種「里山のつぶ」の栽培実証ほを設置しました。

この実証ほも収穫期を迎え、平成 28 年 10 月 11

日（火）に稲刈りが行われました。

担当農家の本田勝信さん御夫妻によりコンバイン収穫が行われ、「里山のつぶ」と比較品種の「あきたこまち」の合計約 50 a の刈り取りが 2 時間弱で終了しました。



快調に収穫が進む

収量は、「里山のつぶ」が単収は 560kg/10 a と「あきたこまち」よりも 1 俵（60kg）以上多収となり、同地区の主力品種となることが期待されます。



収量は上々、営農再開の日が待たれる

また、これに先立つ 10 月 5 日（水）には、飼料用トウモロコシの実証ほでも収穫が行われました。作付け初年目のため期待通りの収量とはなりませんが、営農再開の主力品目となるよう、引き続き実証に取り組んでいきます。

（農業振興普及部）

◆「鳥獣被害対策レベルアップ推進事業」を実施！

県では、昨年度から「鳥獣被害対策レベルアップ推進事業」を実施し、鳥獣被害対策を進める人材の

育成や新しい対策技術の実証活動を行っています。

今年度は、福島市大波や立子山の集落に御協力をいただきながら、イノシシの被害対策に取り組んでいます。

人材育成活動では、野菜や果樹等で行っている栽培指導会の鳥獣被害対策版として、イノシシの生態と電気柵の設置に関する指導会を、イノシシの行動が活発になる6月と9月に開催しました。現地で被害状況や電気柵の設置状況と一緒に確認しながら行う指導会は参加者から好評で、収穫残さの撤去や電気柵のメンテナンス・設置改善を行いました。



電気柵の設置指導会の様子

新技術実証活動では、鳥獣被害対策の基本となる生息環境管理・被害防除・個体数管理の三本柱を実施した場合の効果を検証するため、緩衝帯の整備や電気柵の設置の見直し、有害捕獲を行っています。



整備された緩衝帯

今後、これらの活動の成果を取りまとめ、他地域の集落にも有効な対策を紹介していきたいと考えています。

(農業振興普及部)

◆「平成 28 年度県北地方補助事業担当者等研修会」を開催しました！

平成 28 年 10 月 6 日（木）、福島市松川支所大会

議室において、「平成 28 年度県北地方補助事業担当者等研修会」を開催しました。

この研修会は、県北管内の市町村、農業協同組合職員を対象に、補助事業を活用し、地域農業の振興を図るために必要な知識を醸成することを目的として開催しました。当日は各市町村や農業協同組合などから 36 名が出席しました。

研修会では、まず始めに講師の寺田会計事務所の深瀬善太税理士が、補助事業のポイントとなる消費税について、用語解説や、計算方法と消費税の確定申告の流れといった基礎的なことから、実際の消費税の申告書の見方など、消費税に関する基本となる知識について学びました。



深瀬税理士の消費税の基礎知識に関する講義

続いて、当農林事務所職員が、補助事業の事務手続の進め方など事業実施上の留意点を具体例を踏まえて、分かりやすく解説しました。



熱心に受講する参加者

受講者アンケートによると、補助事業を担当して3年未満の職員が多く、「消費税の研修は勉強になった」、「補助事業に関するこのような研修会を定期的に開催してほしい」といった意見があり、次回につながる研修会の手応えを感じました。

(農業振興普及部)

◆先山ゼロ災推進安全巡回指導を実施中！

林業の作業環境は天候に左右されやすく、作業箇所は傾斜地が多いことや丸太などの重量物を取り扱うことから、労働災害の発生頻度は他の産業に比べて高い状況となっています。このようなことから、当農林事務所森林林業部では、林業における労働災害の発生を未然に防止するため、現在、2名の安全衛生指導員とともに林業の作業現場を巡回し、機械器具の点検や作業方法等について確認を行っています。



下刈作業現場での巡回指導

チェックポイントとしては、適正な服装や保護具の着用、KY（危険予知）活動の励行、近接作業禁止の遵守、蜂抗体検査の受診など安全衛生管理体制を確認するとともに、造林、伐木造材、集材などの各作業においては、適切な方法で実施されているか実際の作業手順などを確認しながら、安全指導票に基づき点検していきます。



伐根の確認

例えば、下刈の作業現場においては、急傾斜地での転倒や刈払機の使用時間に注意するとともに、飛散防護カバーの取付位置などを点検しています。また、伐木造材の作業現場においては、伐倒時に周囲の確認や合図が徹底されているか、伐倒木の受け口の大きさや追い口の位置、つるの残し具合などについては、伐根の状況を確認しながら指導を行っています。

今年度は10か所の作業現場点検を計画し、これまで4か所の点検を終了しております。今後は労働災害の発生頻度が特に高い伐木造材作業の現場を中心に巡回指導を行っていく予定です。

(森林林業部)

◆管内のイベント情報

県では、県民の皆様が主役となる個性と魅力ある地域づくりを推進していくために、民間団体や市町村等が行う地域振興の取組を支援する「地域創生総合支援事業（サポート事業）」を実施しております。

県北地域においても、この事業を活用した様々な取組が行われておりますが、その中から11月に開催される地元農産物や特産品等を取り扱うイベントを御紹介いたします。

皆様、ぜひ足を運んでみてください。

●「あんぼ柿づくり体験ツアー」

- ・主催：五十沢自治会（あんぼ柿発祥の地）
 - ・内容：見学（柿畑・「あんぼ工房みらい」、あんぼ柿づくり体験、郷土料理
 - ・日時：平成28年11月12日（土）～13日（日）
 - ・料金：宿泊8,000円（税込）定員20名、宿泊なし4,800円（税込）
 - ・場所：伊達市梁川町五十沢（あんぼ柿づくり体験）
伊達市霊山町（宿泊）
 - ・申込：福島県北交通株式会社あきば観光
TEL：024-577-0206（日祝以外9:00～18:00）
FAX：024-577-0389
E-mail：info@kenpokukotsu.com
- ※詳細は五十沢自治会ホームページ
(<http://www.isazawa.jp/news/849>)
を御覧ください。

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部の構成員活動紹介

一般社団法人 福島市公設地方卸売市場協会 ～『市民に親しまれる市場』をめざして～

当協会は、福島市公設地方卸売市場内の各卸、仲卸、小売組合、関連事業者、その他の市場関係機関、福島市などの代表者等(39 団体)で構成されている団体です。

原発事故による風評払拭と「世界一安全・安心な市場づくり」を心掛け、また、市場活性化を図るべく日々活動しております。今年度も食品等の安全性と放射性物質に関するデータを展示している「市場パネル展」を通年開催しています。気軽にお出かけいただき、併せて食堂でおいしい海鮮丼なども召し上がってください。また、市場開放イベントとして小学生を対象とした「親子市場見学会」を開催した他、普段は一般の方が入場・購入できない市場で生鮮食料品等を即売する「市場の土曜感謝市」、「わくわく市場まつり」を開催しています。

平成 28 年 10 月 23 日(日)の第 33 回「わくわく市場まつり」では、県北農林事務所主催による「第 2 回『おいしいふくしま いただきます』キャンペーン！」や福島法人会の協賛事業のほか、福島学院大学食物栄養科との連携による県産品の消費拡大事業も同時開催し、例年にない賑わいを見せていました。

その他、市場見学会や料理教室、フラワーアレンジメント・いけばな教室など市場直送の旬な生鮮品等を使った各種事業も通年開催しており、こちらは参加者を随時募集 (<http://www.f-ichiba.jp/>) しております。

当協会では、これからも「安全・安心・新鮮」な生鮮食料品、生花等の安定供給に努め、各種イベント等を通して『市民に親しまれる市場』を目指してまいります。

第 33 回「わくわく市場まつり」



親子市場見学会(7～8月)



イタリア料理教室



青果部



農林事務所イベント



水産部



相馬双葉漁協産煮タコの試食

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

